

地域の資源と個性を生かし ふるさとの一體的な発展を

庄原市長 滝口 季彦

4月17日に実施された新庄原市の市長選挙におきまして、市民の皆さんのご信任をいただき、初代市長に就任いたしました。多くの皆さんから寄せられる期待の大きさを感じ、その責任の重大さを痛感しております。

平成17年3月31日、1市6町の合併により誕生した本市は、市域面積1,246.6km²、人口44,000人あまりという極めて広大な地域に集落が点在する市として、多くの課題を抱えながらも、新たなふるさとへの輝かしい未来へ向け記念すべき一歩を踏み出しました。

私も従来から新市の広さには実感していましたが、今回の選挙を通じて改めて新市の広さを肌で感じるとともに、7つの地域の一體的な発展が必要不可欠であるとの思いを、一層強くしているところであります。

新市においては、危機的な財政状況や厳しい地域経済情勢の中で、過疎化・少子高齢化、基幹産業である農林業の衰退や商店街の空洞化など、難問は山積しており、決して順風満帆の船出とはいえず

せん。

しかしながら、この合併を、直面する諸課題とともに各地域が有する様々な資源や個性を再認識する契機とし、「ふるさと庄原」のさらなる発展への一つのステップとしなければなりません。

今後は、新市の一體的な発展と住民福祉の向上を図るため、新しいまちづくりと生き残りへのチャレンジが始まります。

これまで重ねてきた合併協議において策定した新市建設計画に基づき、地方分権・住民自治を確立する「市民が主役のまちづくり」、定住環境や都市基盤、安心して暮らせる環境の充実を図る「暮らしのよろこびがあふれるまちづくり」、「健やかでやさらぎのあるまちづくり」、あるいは、学力と個性を伸ばし生涯学習の機会を充実する「豊かな心と地域文化を育むまちづくり」、働く場を創出し地域を活性化させる「活力にあふれ、伸びゆくまちづくり」の5つの項目をまちづくりの重点施策に掲げ、各種事業を推進して参ります。新しいまちづくりは、市民



の皆さんと行政とのより力強い連携と堅い信頼関係の確立が極めて重要であり、住民参画による真の住民自治の確立と、併せて市民や自治振興区、NPOや民間企業などの多様な主体がそれぞれの個性や特性に応じた役割を十分に果たし、お互いに協力・連携する「協働のまちづくり」を進めることが必要であります。そのためにも、徹底した情報公開と情報共有を進め、市民の皆さんの声を市政に反映するため積極的に対話を図ってまいります。

「ふるさと庄原」の創造には、地域を想い、ふるさとを想う市民の皆さんの知恵と市民力を結集していただき、「自らのまちは自らで創る」という理念の下、市民が主役のまちづくりを進めていくことが不可欠であると強く考えております。

加えて、各地域の特色ある歴史や伝統・文化、豊かな自然など数多くの資源や個性を最大限に生かし、地域がお互いを尊重しながらもその個性を発揮し、有機的に地域連携するとともに、一人ひとりが輝き、地域が輝くことで、新市の将来像である「げんき」と「やすらぎ」のさとやま文化都市が実現するものと強く確信いたします。

新市を取り巻く状況は厳しいものがありますが、「夜明けの来ない夜」はありません。明るい希望を持って、皆さんと一丸となり新しいまちづくりに取り組んでまいります。今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶いたします。